



TITLE:

磁性(サブゼミ,サブゼミの報告
,1985年度物性若手夏の学校報告)

AUTHOR(S):

元屋, 清一郎; 小林, 寿夫; 川越, 毅; 稻生, 俊雄

CITATION:

元屋, 清一郎 ...[et al]. 磁性(サブゼミ,サブゼミの報告,1985年度物性若手夏の学校報告). 物性研究 1986, 46(3): 344-345

ISSUE DATE:

1986-06-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/92064>

RIGHT:

ファスの講義は、7月29日、30日の2日間でした。

1日目は、東大理学部の村山和郎先生にアモルファス半導体の電子構造の基本的なところから、今村山先生が研究なさっているところまでを講義していただきました。村山先生は、たいへん丁寧に講義して下さいましたのでアモルファス物質を専門に研究している人の間では好評でした。が、アモルファス物質が専門でない人のなかには、「わからない単語がたくさんでてきてよくわからなかった。」などと言っている人がいました。

2日目は、北大理学部横澤宏一さんにスピングラスについて、東大物性研の吉田美穂子さんにアモルファスSi:Hについて、広大工学部の宮崎誠一さんにアモルファス超格子についてお話していただきました。発表者の方々もみなさん基本的な話から今なさっている研究をわかりやすく説明して下さいました。

それから、サブゼミの講義中、2日間とも活発なディスカッションができました。これは、村山先生や発表者の方々がわかりやすく講義して下さいましたからだと思います。心から村山先生と発表者の方々に感謝いたします。

今回のアモルファスのサブゼミは成功したと思っていますが、ただ1つ残念だったことは、サブゼミのコンパに出席された方が受講者に比べて非常に少なかったということです。けれど、ささやかながら楽しいコンパが楽しめました。

サブゼミ 「磁性」

講 師 元 屋 清一郎（埼玉大・理）

発表者 小 林 寿 夫（東北大・金研）

川 越 毅（早大・理工）

参加者 約30名

内容

29日 前半 元屋清一郎「磁性—中性子散乱」PART I

後半 川越 毅「磁性体の電気磁気効果」

30日 前半 元屋清一郎「磁性—中性子散乱」PART II

後半 小林 寿夫「Fe—Zn—B系非晶質金属の磁性」

元屋先生には、今回「中性子散乱」というテーマでお話をしていただきました。中性子による実験について広い範囲にわたり、分かりやすく、他の磁性分野の人にとっても興味深いもの

でした。

最後に、大変お忙しいにもかかわらず、講師、発表者を引き受けて下さった、元屋先生、小林さん、川越さん、及び御協力下さった皆様に心からお礼を申し上げます。

(世話人 埼玉大・理 稲生俊雄)

サブゼミ 「格子欠陥」

プログラム

「荷電粒子の金属中での拡散」杉本秀彦(中央大・理工・物理)

「固体表面における低速陽電子」石井 晃(早大・理工)

「金属中の正ミュオンの拡散」門野良典(東大・理・物理)

第1日には、杉本先生に水素同位体、正ミュオン、陽電子の拡散について講演していただき、2日目には石井氏、門野氏により陽電子と正ミュオンについての最近の進展を話していただいた。

初日の夜にはコンパを催し他大学の人々との交流を深めた。

最後に、杉本先生、石井氏、門野氏にこの場を借りて御礼申し上げます。

(世話人 筑波大・物質 上殿明良)

サブゼミ 「物性基礎論Ⅱ」～Brain～

Brainは、参加人数40名。——1日目はおとなしくチューターの自己紹介から始まった。はじめに池上はスピングラスの理論と脳の問題について簡単に紹介し、つづいて津田氏が生理学的見地から脳の構造を解説、奥村女史が最近の彼女の人工知能の研究について話をし、池田氏とやりとり。ここでコーヒータイム。

この後、ゼミは会場を狭い教室から夏草生い茂るゲレンデに所を移し、小グループに分かれて話し合いが行なわれた。松本氏のまわりでは氏の粘菌の研究について、池上のまわりでは最近の神経ネットワークモデルについて、津田氏・金子氏のまわりでは脳におけるカオスの役割、はてはガイア理論にまで話は及んだ様である。

1日目の夜はコンパもありあがり、脳にアルコールを与えるとどのようなレスポンスがみられるかの研究も行なわれた。